

編集後記 今日の生協の直接の源といわれるのは、1844年に創立されたロッチデール公正先駆者組合という組合です。イギリスでそれ以前にできた多数の生協は、ほとんどが失敗してしまいます。そこでその教訓から、厳格なルールを定めて店舗を運営し、成功を収めたのがロッチデールの先駆者組合でした。

しかし、開店当初の先駆者組合は規模も小さく、売られている商品もごく限られていました。店員も仕入れ係りも会計も、専属の労働者がいたわけではなく、組合員となった人々が分担して務めていたようです。今では考えられない、素朴な「みんなの生協」です。

ところが、こうした原始的な組合員の手作りの店が、いま脚光を浴びています。NHKの衛星放送でも紹介されたことから知る人も多いと思いますが、ロンドンにできたピープルズ・スーパーマーケットという店は、組合員の義務として、労働による奉仕、つまり店員などの役割を果たすことをもとめています。イギリスの大手生協は日本の生協と違って、組合員は出資金を払い込むだけではダメで、生協の店舗運営に実際に力を貸すことがもとめられているのです。アメリカのフードコープという都市部にある小型生協でも、こうした仕組みが導入されています。これぞ生協の原点であり、大規模流通業が支配する流通の世界において、そうした手作りの仕組みをあえて大切にしたいという考えでしょう。

その意気やよしというべきですが、1月の初めと3月の初め、実際にピープルズ・スーパーマーケットを訪れてみると、品揃えその他の点で、とても手放しでは賞賛できないのではないかという感も抱かざるを得ませんでした。日本でも、イギリスでも、店舗事業というのは一筋縄ではいかないものなのだと、あらためて認識させられました。

次号は6月の発刊、生協と「文化」を取り上げます。(志)

季刊 暮らしと協同

2013年春号(第4号)

2012年3月25日発行

編集企画：『暮らしと協同』編集委員会

編集長：杉本貴志

発行所：暮らしと協同の研究所

理事長：的場信樹

京都市中京区夷川通烏丸東入西九軒町 291

せいきょう会館内(〒604-0851)

電話：075-256-3335

FAX：075-211-5037

E-mail: kki@ma1.seikyou.ne.jp

URL: <http://ha1.seikyou.ne.jp/home/kki/>
